

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	コロナウィルスと共存する世界と静岡県経済・企業の持続可能性への影響				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	飯野 光浩
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	古川 光明
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	宮崎 晋生
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	飯野 光浩

講演題目	コロナウィルスと共存する世界と静岡県経済・企業の持続可能性への影響
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>日本を含めて、世界はコロナウィルスとの共存を前提として、経済活動が再開されて、活発になってきている。この影響は、世界経済や静岡県経済・企業にも及んでいる。このことについて、研究した結果、主な成果と今後の展望は以下の3つである。</p> <p>(1) 2019年12月初旬に中国武漢市で最初の感染者が確認され、その猛威は世界中に拡大することとなり、世界経済にも大きな影響を与え続けている。そのようななか、さらに世界経済に追い打ちとなるように、2022年2月、東ヨーロッパでロシアとウクライナの間で戦争が勃発した。この2カ国は世界で取引される総カロリー約12%を占めており、世界の食料安全保障に深刻な影響を与えるとともに世界の物価が大幅に上昇した。さらに同戦争は世界のエネルギー事情にも大きく影響を与え、そのことがさらなる物価上昇に反映されることとなった。その結果、日本のみならず、静岡県経済・企業に対しても価格上昇が生産コストや価格に影響を与えることとなり、今後の企業の経営のあり方が問われる状況になっている。今後もグローバル化におけるウクライナ戦争の影響やコロナウィルスと共存する世界の動きと静岡県経済・企業への影響に注視していく必要がある。</p> <p>(2) 静岡県経済・企業への影響としてコスト上昇圧力の他にコロナウィルス感染による社会的変化、つまり移動自粛に伴う遠隔/リモート化もあげられるだろう。デジタルネットワーク上の仮想空間を用いた様々な取り組みがVR(仮想現実)やグローバルな規模での遠隔管理システムの構築など多様な分野で試みられている。県内機械メーカーの例としては、各顧客企業への出張対応が制限されたためにVRやクラウドサーバによる対応がむしろ進行し、さらに故障予知や消耗品管理の自動化などサービススタッフの対応が簡略化したことがあげられる。また、海外自動車メーカーと県内 casting メーカーの間では遠隔地(独)の顧客から3DCADデータの高速転送により迅速かつ高精度な試作品製作が可能となり、EV化競争が激化するなかで県内企業イノベーション能力構築も見られている。静岡県経済・企業にとって、コスト上昇圧力というマイナス面とサイバー空間/仮想化によるイノベーション推進というプラス面双方の影響を引き続き注視する必要がある。</p> <p>(3) コロナウィルスのパンデミックにより、持続可能性の達成に関して、改めて政府の役割が見直されている。供給網の混乱や物不足などにより企業や市場が上手く機能しない事例が多数あったことを受けて、これまでの企業や市場を重視した考え方は再検討されている。今後は、政府がある程度、市場や企業に代わって、持続可能性に関して果たすべき役割は大きくなる。</p>